

内水面漁場を外来魚から守るために

滋賀県琵琶湖のオオクチバス、ブルーギル、岐阜県長良川のコクチバス、茨城県霞ヶ浦のチャネルキヤットフィッシュ。皆様の中には、これらの外来魚に関する報道を耳にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。外来魚は、在来魚を捕食し、親が仔を守ることで爆発的に増殖することから、従来の生態系を破壊し有用な水産資源に影響を及ぼす危険性があります。実は福井県でも外来魚が確認されており、水産課および内水面総合センターでは対策を進めています。今回は、内水面総合センターの取組みについてご紹介します。

○調査内容

内水面総合センターでは、漁場における生息状況を監視するため、三方湖と九頭竜湖の2地点で外来魚のモニタリング調査を実施しており、三方湖ではカゴや小型刺網を使用したオオクチバス、ブルーギルの採捕、九頭竜湖では小型刺網、大型刺網を使用したコクチバスの採捕をしています。また、採捕された外来魚は解剖し胃内容物の分析を行うことでヤマメやコイ、フナなどの有用魚種の食害状況を調べています。



図1 ワカサギを食べていたオオクチバス（左）、ヤマメを食べていたコクチバス（右）

○これまでの調査結果

三方湖のブルーギルについては、捕獲尾数が平成30年度をピークに減少傾向にあるものの、捕獲重量は横ばい状態となっています（図2）。これは捕獲尾数の大半を占めていた体重3g程度の当歳魚が捕れなくなり、体重150g程度の親魚の捕獲尾数がそれほど減少していない状況を反映したものと考えられます。

九頭竜湖のコクチバスについては、年変動はあるものの令和3年度以降は捕獲尾数、捕獲重量ともに増加傾向にあります（図3）。近年、九頭竜湖より下流域においてもコクチバスの捕獲情報が相次いでおり、生息域拡大防止策を早急に進める必要があります。

○外来魚をこれ以上広げないために

外来魚対策として重要なことは、駆除活動の継続と外来魚問題の啓発活動です。一度侵入してしまった外来魚をゼロにすることは現実的には難しいですが、地道な駆除活動によって低密度の状態を維持できれば、外来魚による食害から有用魚種を守ることにつながります。外来魚の中でもオオクチバスやコクチバスはスポーツフィッシングの対象となっており、他県では密放流がきっかけでこれらの魚が侵入するケースが多いです。駆除イベントの実施などを通して地域住民や漁業協同組合、県が外来魚を歓迎していない姿勢を示すことが重要だと考えています。

（内水面総合センター 竹内 一貴）

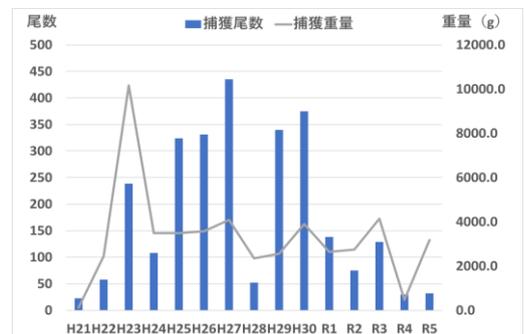


図2 三方湖ブルーギルの捕獲尾数・重量の推移

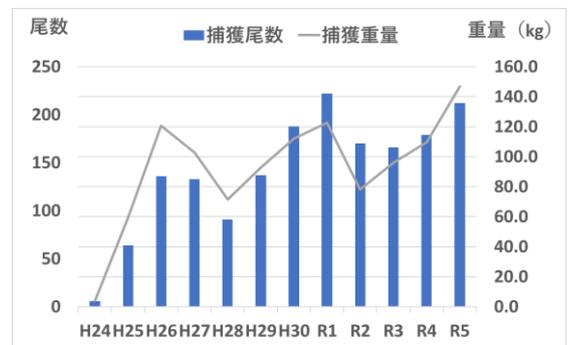


図3 九頭竜湖コクチバスの捕獲尾数・重量の推移